JUNE 20, 2014

HANAYAMA TIME

Challenge It Seriously

デレさせてみせる、きっと

奥野香耶

ハナヤマタ インタビュー

http://hanayamata.com

SASAME YAYA

KOKUNO KAYA

Voice Actor

自分自身に驚いた瞬間

「もともと人前に立つのが好きだったみたいです。なんで好きなのか、いつから好きになったのかは覚えていなくて、実は気付いたら……という感じですけれど」

そう少し照れながら話してくれたのは、『ハナヤマタ』で「笹目ヤヤ」を演じる奥野香耶さん。女優でもアイドルでもない、声優として人前に立つという選択。決心するまでには、熱情と逡巡とでゆれる時間が必要だったという。

「声優を職業として見るようになったのは、高校時代の友人の影響でした。アニメが大好きな子だったんですが、その子に『香耶は声優さんみたいな声だね』って言われたんです。

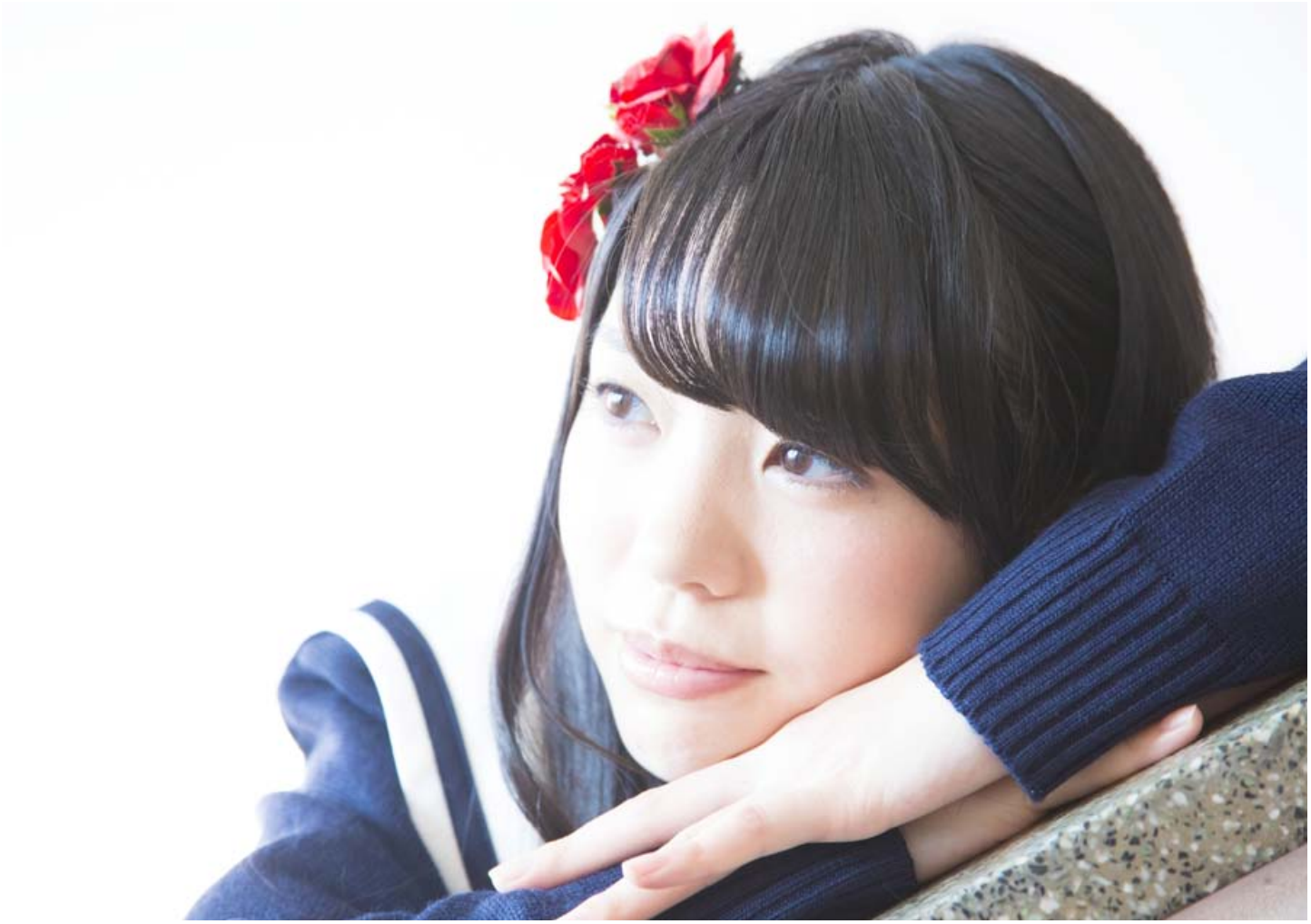
そのころはアニメや声優という仕事についてあまり知らなくて"そうかなぁ～"程度にしか思っていなかったんですが、それから調べていくうちに『こういう仕事があるのか、面白そう！』って思うようになっていきました。それで、声優さんっぽく発声してみたら自分でもびっくりするような声がでたんですね。高めで普段出さない声を自分が出している事実が、ちょっと衝撃的で。自分自身に驚くというか、再発見をした感じだったんです。

そこからアニメの声まねをするのが趣味になって、どんどんのめり込んでいきました。そのころに放送されていたアニメを片っ端から録画して、流しなら全部の台詞をシャドーイング（※ある程度の分量の台詞を聞いてから、同じように口にして繰り返す練習方法のこと）する……みたいなことをしていました。

男性女性を問わず、すべての登場人物の声まねをしていたんです。いま思えば似ているかどうかなんて、どうこういえるレベルではとてもなかったですけれど……それでもとっても楽しかったですね。

シャドーイングは高校2年生からはじめて、大学に進学しても一人でずっとやっていました。大学に入学してからは、深夜アニメを見ながらシャドーイングしたのをケータイに録音して、後で聞き直して"ここは似ている""ここはダメ"なんて、自己評価をしたりして遊んでいました。

ただ、好きなことや趣味は人に知られたくないというか、隠しておきたいタイプなので、こんなことを知っていたのは、家族の中でも隣に座っていた飼犬だけでした（笑）」



情熱、ためらい、ゆれる想い――

ほぼ毎日、〝楽しいから〟を理由に一人でシャドーイングをつづけた彼女。当然、声優という職業を目指すべき夢として考えるようになっていく。しかし、なかなか踏み切れなかったという。

「声優になりたい、声のお仕事をしたいとはずっと思っていたんです。でも、どこかでなれるはずないとも思っていました。

高校3年生になって進路を決めるときも、声優の専門学校の資料を集めて両親に声優の勉強をしたいと相談したこともありました。でも、その時は〝もっと現実を見なさい〟と言われて、自分でもそうだな……と思ってしまった。

現実を見ろというのは当然だったと思うんです。一人でシャドーイングのようなことをやっているのも、アニメのような声が出せるということも両親は知りませんでしたし。

〝現実を見なさい〟という言葉に納得はできなかったですけれど、〝それは仕方がないことなのかな〟とも思ってしまった。自分のなかで、既にあきらめてしまっていた部分があったんですね。

結局、大学に進学はしましたが、どこかしっくりしない想いが常にありました。それでも大学生活は充実していましたし、選んだ学科の勉強も楽しかった。

自由になる時間も増えたので、声優のオーディションをいくつか受けたりもしたんです。結果はみんなダメでしたけどね（苦笑）。

そうやって時間が過ぎていくにつれ、このまま進級していけばいずれ社会に出ていかなくてはならないという現実と、声優になりたいという夢がぶつかって、どちらかに決めなくっちゃ……という時、『第2回アニソンヴォーカルオーディション』開催を知ったんです。

今回は『avex × 81produce Wake Up,Girls! オーディション』という形で開催されるぞ、という文面を見て、これはもう最後のチャンスだ！と決心して、オーディションに応募しました。

〝これでダメなら声優としての夢はあきらめよう、就活をして社会人になろう〟って」

緊褌一番で望んだそのオーディションで、見事その役を射止めた奥野さん。

そして、声優として人前に立ち、芝居に歌にステージと常に新しいことに挑戦してきた彼女の次のチャレンジは、『ハナヤマタ』のオーディションだった。

最初に受けた時はダメだったという知らせを受けて、『ハナヤマタ、ダメだったなぁ……』と落ち込んでいたら、ヤヤを再オーディションをするという連絡をいただいてこれはもう絶対にやりたい！って。

最初にキャラクターデザインを見せていただいた時、一番かわいい、素敵！って感じたのはヤヤだったんです。

だから、ヤヤ役に選ばれたのは本当にうれしかった。やっぱり、がんばれば夢はかなうんだな、って」

もっともっと彼女をかわいく

再オーディションという僥倖はあったものの、それを自分のものにしたのは学生時代から一人でつづけてきた、膨大な練習の蓄積があったからに違いない。

そんな彼女が一度はあきらめかけた「笹目ヤヤ」とは、一体どういうキャラクターなのだろう。

「とても難しいですね……なんだろう、ツンツンしているけれど、意地悪じゃないんですよ。しかも、なるにはモジモジとデレデレが加わりますし（笑）。ヤヤ自身が理解できていない戸惑いや想いがたくさんあって、それを演じなければならないのが難しいですね。表面的な部分はどんどん出していくのに、心の奥底を出すのは苦手。そういう部分の演じ分けが難しくて、まだまだ試行錯誤を繰り返しています。

やっぱり、ヤヤをかわいくしたいんです。すごくかわいくしたいのに、まだ自分の芝居がそこまで届いていないのがとても悔しいですよ。

以前、キャラクターの自己紹介をラジオドラマ風に収録したのですが、その時に『ツ

笹目ヤヤ（CV. 奥野香耶）

なるの同級生で、小学校からの親友。
バンドでドラムを担当するなど歳相応に青春を楽しんでいるが、ひょんなことからよさこい部に名前貸しをすることに。
なるとは対照的に「持ってる」女の子、かと思いきや……？
実家はお蕎麦屋さん。

PROFILE
奥野香耶（おくのかや）

3月1日生まれ。
81プロデュース所属。
主な出演作は
「Wake Up, Girls!」（菊間夏夜）
ほか

ンデレではなく意地が悪いように聞こえる』と言われてしまって……ツンデレと意地悪なんて、全く違いますもんね。まだ、アフレコは序盤ですが、どうやったらヤヤちゃんがかわいくなるのか、今はそればかりを考えています。」

新しい役と格闘をしながら、それをとても楽しそうに語る奥野さん。そこには一歩踏み出すにも逡巡したかつての気弱な姿はない。

最後に、役者として、声優としての目標を聞くと、再び彼女は少し照れくさそうにこう語ってくれた。

「憧れの声優さん、ああいう人になりたいと目標にしている声優さんはいるんです。今は〝憧れ〟ではなく〝比べられる〟場所にようやく入ることができた。だから早く追いつきたい。でもまだ遠い……ですね。

そのためにも、まずはヤヤちゃんをかわいくしてあげたい、もっともっとです。彼女、なかなかのツンデレなんで（笑）。でも、振り向かせてみせる、デレさせてみせますよ、きっと」

Photo / Masaaki Matsumoto
Text / Yohei Ogawa
Editor / Koji Terada
Design / Over Drive

© 浜弓場 双・芳文社／ハナヤマタ製作委員会

TVアニメ「ハナヤマタ」7月よりテレビ東京ほかにて放送開始